

平成26年3月18日
外務省国際協力局 民間援助連携室長殿

平成25年度 NGO 相談員出張サービス実施報告書

NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

- 出張サービス企画名：国際協力・NGO・ボランティア入門～NGO の働きから MDGs の動きまで～
- 実施日時：平成26年3月8日（土）14時00分～17時00分
- 場所：新潟市市民活動支援センター
- 出張者氏名：渡辺李依

2. 実施内容
新潟県新潟市に事務所を持つ、新潟国際ボランティアセンター（以下、NVC）が市民向けに開催している「NVC 第78回地球を知る講座」にて、「国際協力、NGO、ボランティア入門～NGO の働きから MDGs の動きまで～」をテーマに、全講義・ワークショップを実施。内容は以下の通り。

- ・講義：日本の国際協力と NGO の活動について
→「NGO データブック 2011」（外務省国際協力局民間援助連携室発行、当団体編集）を元に、日本の国際協力 NGO の概論について説明。
- ・講義：当団体（国際協力 NGO センター（JANIC））の活動について
- ・ワークショップ：「少年ルイスの物語」
→あるストーリーを通して、途上国において適切な治療や十分な栄養の確保が難しい現実があることを知ると共に、その原因である社会的、経済的、医学的、物理的な様々な要因について体系的に理解することで、MDGs のゴール 4「乳幼児死亡率の削減」を実現するために参加者にできることを見つけるヒントを導き出した。

当日の参加者は14名。20代、30代の社会人が多かった。14人中7人からアンケート記入があり、5段階評価で良い方向の5と4の評価だった。コメントは下記の通り。

- ・ワークショップをすることで、考える重要性、多様な意見を知ることができた。

- ・NGOについてより一層知ることができた。

- ・プロジェクトを考えるのがおもしろくて、勉強になった。

- ・世界中に支援や救助を必要とする貧困な人々がまだ沢山いることと、NGOによる支援がまだ不十分であることに痛感している。

3. 所感

人数が少人数であったこと、また、NVCのスタッフや、これまでに接点のある人など、お互い顔を知った人同士の参加が多かったため、活発なグループワークとなった。また、参加者からの質問は下記の通り。

- ① NGOで就職するために必要なこと
- ② 新潟市に店舗を構えるフェアトレードショップ
- ③ JICAの人材育成研修について
- ④ 地域のNGOに求めること

上記に対し、①に関しては、NGOデータブック2011の内容に加え、当団体が一般向けに開催しているNGO就職ガイダンスの内容を説明した。②に関しては、NVCのスタッフより回答いただき、関東地方のフェアトレードショップの傾向を伝えた。③、④に関しては、NVCスタッフからの質問となる。NVCは全員無休のスタッフだが、ベトナムで開発プロジェクトを実施している。現地にローカルスタッフを1名置き、日本人スタッフがその調整を行っており、そのスキルアップのための研修への参加を希望していた。また、当団体のようなネットワークNGOが地域のNGOに何を求めているかの問いに対して、地域のNGOに対し、人材・組織力を向上させる研修や、団体の活動方向などの悩みを共有できる環境が必要と感じ、その旨回答した。

地域のNGOや国際協力関心層に今回のテーマにおける情報共有を実施すると共に、その地域のNGOのニーズも満たすことも、本出張サービスの意義と考える。

【相談対応の様子】



以上

平成 26 年 3 月 10 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： シリア難民支援にみる、難民問題と国際支援について

開催日時：平成 26 年 3 月 6 日（木） 14 時 45 分～ 16 時 15 分

主催者： 特定非営利活動法人 難民を助ける会

場 所： 長野県立諏訪清陵高等学校（長野県諏訪市清水 1 丁目 10-1）

出張者： （正・副・その他）

特定非営利活動法人 難民を助ける会 景平義文、ムナ・アルバドラン

参加者：同校 1、2 年生 70 名

実施内容：

まず、当会のシリア難民支援事業担当の景平から、シリアの難民流出状況や難民の生活概況について説明した。また、長期化する避難生活に対して国際社会が支援する必要性を伝えた。その後、自身が難民でありながら、現在は当会スタッフの一員としてトルコでシリア難民支援活動に携わるムナ・アルバドラン氏が、自身や家族の戦時下での生活、難民としてのトルコでの生活の様子を紹介した。講演後の質疑応答では、「国際機関や NGO は支援対象者をどのように選定しているのか」「私たちがシリア難民支援のために今できることは何だと思うか」といった質問が寄せられた。

所感：

「内戦、難民、避難生活」という状況を高校生が理解するのは難しく、まして「シリア、トルコ」といった馴染みの薄い国のこととなるとさらに想像が膨らみにくいだろうと思う。しかし、参加者と年代の近いムナ・アルバドランが自身の言葉で語ったことで、「もしも自分がムナさんの立場だったら」と参加者が現実感をもって話を聞くことができていたように思う。また、将来国際協力の分野で働きたいと考えている参加者も多く、今回のように、NGO 実務に携わっている者が直接お話しすることで、参加者の国際協力分野の理解を深め、今後の学習の一助とすることができた。生徒からは「自分のできることとして、シリアをはじめ、世界で何が起きているのかを積極的に知ろうと思う」「自分が勉強を当たり前でできることの幸せを感じた」といった感想が寄せられた。



講義の様子

(写真上：質問をする生徒と応答する景平義文（右奥）、ムナ・アルバドラン（右手前） 写真下：講義全体の様子）

平成 26 年 3 月 10 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： シリア難民支援にみる、難民問題と国際支援について

開催日時：平成 26 年 3 月 7 日（金） 19 時 00 分～ 21 時 00 分

主催者： 特定非営利活動法人 難民を助ける会

場 所： 大阪大学中之島センター3 階会議室 304（大阪市北区中之島 4-3-53）

出張者： （正・副・その他）

特定非営利活動法人 難民を助ける会 景平義文、ムナ・アルバドラン

参加者： 大阪近郊の大学生、社会人 50 名

実施内容：

まず、当会のシリア難民支援事業担当の景平から、シリアの難民流出状況や難民の生活概況について説明した。また、長期化する避難生活に対して国際社会が支援する必要性を伝えた。その後、自身が難民でありながら、現在は当会スタッフの一員としてトルコでシリア難民支援活動に携わるムナ・アルバドラン（女性、22 歳）が、自身と家族の戦時下の生活、難民としてのトルコでの生活の様子を紹介した。講演後の質疑応答では、難民キャンプの中と外での生活の違いや、トルコにいる難民が受けることのできる教育や医療サービスについて、また難民と受け入れコミュニティとの間の摩擦の具体的な事例等の質問が寄せられた。

所感：

中東地域、イスラーム文化、アラビア語等に関心のある若い世代の参加者が多かった。ムナ・アルバドランが、自身のシリアでの学生生活や、楽しかった思い出などを冒頭に話したことで、若い世代の参加者は特に共感を持って話を聞いていたように思う。限られた時間ではあったが「心の交流ができた」とアンケートに書く方もいるなど、温かい雰囲気で行うことができた。また活発に質問が寄せられ、「大阪ではシリア難民から直接話を聞く機会がなかったため、シリア難民の現状に対する理解が深まった」「国際協力の現場で働く NGO 職員の話が聞けて、国際協力分野での仕事のイメージが広がった」という感想も複数寄せられ、有意義な出張サービスとなったと思う。



講義の様子（写真上：右奥は景平義文、隣はムナ・アルパドラン 写真下：参加者の様子）

平成 26 年 4 月 1 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特定非営利活動法人)
日本国際ボランティアセンター



NGO 相談員による出張サービス実施報告

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

記

1. 企画名：(1)「ラオス農村部における森林保全と持続的発展の在り方を学ぶ」
(2)「ラオスにおける NGO 活動を幅広くケーススタディで学ぶ」

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他 ()】

2. 出張者氏名：平野 将人 (ラオス事業担当)
3. 依頼元／主催等団体名：
 - (1) 西栗倉村産業観光課
 - (2) 広島ラオス交流協会
4. 実施予定日時：
 - (1) 平成 26 年 3 月 29 日 (土) 14 時～16 時
 - (2) 平成 26 年 3 月 30 日 (日) 13 時 30 分～16 時 (準備含む)
5. 実施場所：
 - (1) 岡山県・西栗倉村役場 2 階会議室 (〒707-0503 岡山県英田郡西栗倉村影石 2)
 - (2) 広島市男女共同参画推薦センター「ゆいぽーと」(〒730-0051 広島市中区大手町 5 丁目 6 番 9 号)

6. 実施内容報告

- (1)「ラオス農村部における森林保全と持続的発展の在り方を学ぶ」

①概要

岡山県英田郡西栗倉村は 2012 年よりラオス国農林省農業普及農業組合局と、同国の薪、炭製品等の普及に貢献するとともに、そこで得た収益の一部をラオスでの森林保全、環境保護、農山村地域の持続的発展に役立てる事業を行っている。同事業での社会貢献に反映させることを目的に、ラオス農村部で活動する当団体の経験を紹介した。

②参加人数

村長他役場関係者、村民計 14 名

③内容、所感

西栗倉村は中心部からはある意味で取り残された、しかしそれだけに昔ながらの良さの

残る村として、都市との競争ではなく「持続可能な上質な田舎作り」を標榜している。さらに、そのような状況は国際社会においてラオスが置かれている状況に近いと感じ、交流事業を行い学び合おうとしている。今回の講演では、粗放的な農業と森林での採取の両方を行う、環境や生態系と生計が直結したラオスの農村部の暮らし振りを紹介することで一般的な意味でのラオスへの関心を喚起するとともに、そこで起きている問題も検討し、灌漑設備の敷設状況やそれが低い中でどのような支援が可能かなど、そのような状況下で同村がラオスにおいてどのような森林保全・農業農村開発支援を行えるか、そのヒントを与えることができた、また、主に村長副村長らの質問に答えるかたちで、ラオスにおいて諸活動を進める際の進め方、習慣、諸注意についての様々な質問にも答えた。今後とも第三者の観点から適宜助言していくことが要請された。

(2)「ラオスにおける NGO 活動を幅広くケーススタディで学ぶ」

①概要

広島ラオス交流協会は 1993 年に設立され、1994 年の第 12 回広島アジア大会へ選手団を招聘すべく活動を開始し、その後スポーツと教育支援活動をし、今年設立 21 周年となる。これを記念し、よりラオス国の支援のためにどのような活動をするべきか、原点に帰って研究しようというテーマで、今回の公演を開催、一般の方々の参加も得てラオスでの開発支援と一緒に学んだ。

②参加人数

社会人、協力隊経験者他で計 19 名

③内容、所感

参加者の中には昭和 40 年代から数年前までの青年海外協力隊でラオスに派遣された人々や、同協会の活動を通じてラオスを訪れた人々も多く、ラオスに対する基本的に高かったが、主に都市部での支援活動が多く、今後農村部での支援も視野に入れたいということだった。そういった背景から、一般の方の参加もあったためラオスの一般概況についての説明も省きはしなかったものの、主に山あい暮らし少数民族の暮らしや彼らの生活を脅かす土地収用問題の状況、そしてそういった問題の解決を困難にしている最新の社会政治状況についても説明した。参加者からは、①土地収用問題などの諸問題に対する国際社会の反応はどのようなであったか、②農村部での活動に伴う困難はどのようなものか、あるいは③農村部の学校でトイレは必要だと思われるか、など様々な質問が出た。それらの質問については、①各国ごとにアプローチは異なるが、多くの国がラオス政府に懸念を表明しており、NGO も含め外国アクターの重要性が増していること、②土壌が流出しやすい田に堆肥作りを奨励しても実践に繋がりにくいなど、自然、気候条件に左右される部分が多いこと、③村にも一般的にトイレがない中優先度は一概に言えないが、高学年の女児童や女性教師にとっての環境の観点から必要性があることなどを説明した。今後の協会の支援の新しい展開のヒントになる講演内容だったという感想をいただいた。

7. 交通費

(1) 交通費計：46,310 円

(2) 経路：

東京 - 岡山宿泊付新幹線往復出張パック 27,800 円

岡山 - 大原（特急往復） $4,160 + 3,350 = 7,510$ 円

岡山 - 広島（山陽新幹線往復※自由席） $5,350 \times 2 = 10,700$ 円

広島→鷹野橋 150 円

鷹野橋→広島 150 円

計 46,310 円

（3）開催場所までの距離 : 片道 約 650km

8. 宿泊 : 有・無

岡山ビジネスホテルアネックス（〒700-0901 岡山県岡山市北区本町9-16）

素泊まり、上記出張パック内

9. 日当 : 2,200 円

10. 実施の模様（当日写真）

（1）3月29日



（2）3月30日



以上

NGO相談員による出張サービス実施報告書

2月25日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : ぼらマッチ! なごや 見つけよう! あなたにぴったりのボランティア

【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他 ()】

2. 出張者氏名: (特活) 名古屋 NGO センター 田口裕晃

3. 催しの概況:

実施日 2014年3月2日(日) 13:00~16:00

場 所 ナディアパーク(愛知県名古屋市中区栄3-18-1)

対象者 子ども、学生、社会人、退職者など一般。

うち、ブースに訪れた人は約80名、相談者は20名。

概 要 名古屋市市民活動推進センター(名古屋市が運営)が主催のイベント。ボランティア募集中の団体とボランティアを探している人が直接話せるマッチング・イベントが実施される。当団体は「国際協力でボランティアをするってどんなこと?何をするの?」「NGOって何をしているの?」などの疑問に応え、相談対応サービスを実施した。

4. 実施内容:



●主な相談内容は以下のとおり。

- ・ NGO と NPO の違いは何か。
- ・ ボランティアがしたいが、特別に必要な能力はどのようなものか。
- ・ フェアトレードとはどのようなものか?
- ・ 中部地域にある国際協力団体はどのような団体があるか。
- ・ 会報誌作成するボランティアの具体的な業務内容は何か。

幅広い年代の参加者がブースへ来訪された。特別な能力も必要なく誰でも参加できるボランティア情報を事前に集めておき紹介した。また、来訪者の興味関心にあった、NGO のボランティア情報を提供するよう心がけた。

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「第12回ユニセフのつどい」

※出張形態：相談対応サービス

2. 出張者：芳田弓生希（公益財団法人PHD協会職員）

3. 実施日：2014年3月9日（日）10：00～15：00

4. 場所：コープこうべ生活文化センター 2F ホール
（兵庫県神戸市東灘区田中町5丁目3-18）

5. 対象者：兵庫県民を中心としたイベントに参加する不特定多数

6. 実施報告：兵庫県ユニセフ協会より、昨年に引き続いて本イベントに相談員として招かれた。

アジア・アフリカの国々を対象に国際協力・交流を行っている団体をはじめ、東日本大震災被災地への支援活動を行っている団体が集まり、合計19団体が本イベントにブース出展していた。また各団体が活動の紹介を行うとともに、参加者が各ブースを回る時間を設け、団体間及び団体と一般参加者間での交流を深めたるものであった。その一角に相談員ブースを設け、相談対応を行った。

午後の部では、各出展団体が会場全体に対して活動紹介を行う時間があり、そこでNGO相談員制度について紹介、どのような活用方法があるのか、どのような相談に応じることができるのか、具体例を交えて伝えた。また相談ブースの設置、相談対応を行っていることを伝え、活用していただくよう呼びかけた。話している間、頷きながら聞いている参加者が多く、紹介時間の後には参加者がブースに立ち寄り、相談を受けた。中学生の参加者からは、「NGOで仕事をしていて、辛いこと楽しいことは何か？」「どのようなことを今からやれば良いか」などの相談があった。また、フェアトレードや海外からの人を受け入れるホストファミリーについてなどの相談も受けた。

参加者は、中・高校生から大人までの幅広い層で、一般参加者に加えて、兵庫県ユニセフ協会のスタッフ・ボランティア、コープこうべ関係者、出展団体など約200名が集まった。

7. 添付画像：当日の様子を2枚添付



開会前の会場の様子



団体の活動紹介の時間に
NGO 相談員制度と活用法を紹介

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「第18回 神戸国際交流フェア2014」

※出張形態：相談対応ブース

2. 出張者：井上理子（（公財）PHD協会職員）

3. 実施日：2014年3月16日（日）11:00～17:00

4. 場所：ハーバーランド スペースシアター
（神戸市中央区東川崎町1-3-3）

5. 対象者：兵庫県内に在住の日本人、外国人コミュニティを中心とした不特定多数、約15,000名が対象（昨年度実績）

6. 実施報告：地域展開の取り組みとして昨年度に引き続き兵庫県国際協力推進員の方と連携し、上記「第18回 神戸国際交流フェア2014」にて相談員対応ブースを実施した。

神戸市を中心に活動する国際協力・交流団体や外国人コミュニティなどが参加し、国際交流の輪を広げるとともに、市民の方に外国の文化・伝統と神戸の国際化への理解を深めていただくことを目的として実施された。実際に来場していた参加者も多様な国籍やアイデンティティを持つ参加者以外にも家族連れやシルバー世代の方など、国際色豊かなイベントになっていた。

実際の相談としては、様々な国に関する質問や日本にいる留学生や研修生の状況などについての質問があった。特にシルバー世代の方々からは留学生や研修生にボランティアとして何かできないかという相談が数件あり、幅広い層の方が海外についてや国際協力・交流への関心があると感じた。

本イベントへは兵庫県国際協力推進員との連携により二回目の出展となった。昨年度に続き本出展を通して相談員、推進員双方への相互理解を含め、今後も継続していき連携を深めていきたい。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を2枚添付



「第18回神戸国際交流フェア2014」出張サービス「相談対応ブース」の様子

平成 26 年 4 月 4 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名：沖縄の多文化共生に向けて シンポジウム
2. 実施日時：平成 26 年 3 月 8 日（土）13 時 00 分～16 時 30 分
3. 実施場所：沖縄市中央公民館 研修室
4. 活動内容

地域に住む日本人・外国人が安心して生活し、子育てできる多文化共生社会を地域での取り組み事例や外国人の実情を共有シンポジウムを開催。多文化共生社会の実現に必要とされていることやその対応、手立てについて行政、市民、それぞれができることや連携の可能性を話し合い、多文化共生に向けての方向性を探った。今回、北海道で多文化共生事業を行ってきた北海道国際交流センターと共に相談対応、ワークショップを実施し、来場者の相談に応じた。

5. 参加者人数：80 人
6. 所感及び感想

地域の国際交流協会、日本語教師、社会福祉協議会職員、教会関係者、政治家、沖縄在住外国人とその家族などの参加があった。講演、シンポジウムを行った後、ワークショップでは多文化共生の現状と課題、これからできる事（要望も含む）が話し合われた。相談対応も含め、一人一人の声を聞くことで多文化共生社会をつくるための取組みの必要性が感じられるし、また課題を抱えている人々の解決の一助につながる場面も見受けられた。このような機会を少しずつ増やしていきながら取り組んでいく必要があると思われる。



相談対応の様子



シンポジウムの様子